

JCMA 報告

インド EXCON 2007 出張報告

業務部

出張目的：EXCON 2007 展示会（11月14日～18日）にブースを出展し、協会・研究所の紹介を行った。

1. 開催概要

主催者：CII: Confederation of Indian Industry
（インド工業連盟）

開催期間：2007年11月14日（水）～18日（日）

会場：BIEC: Bangalore International Exhibition Center（バンガロール国際展示場）

会場面積：約70,000 m²（推定）

出展者数：282社（内海外58社）—主催者情報

来場者数：15,000人（予想数）—主催者情報

今回は従来の会場から新しく建設された上記会場となり、スペースも広く、施設も整ったものであった。但し、会場は市内から約20km北西にあり、バンガロール市からハイデラバード、ムンバイへ繋がる主要国道沿いで、交通量が多くひどい時には、片道2時間かかっていた。会期中は好天に恵まれ、特に後半の金曜日～日曜日は大変な盛況であった。今回は、日本勢も10社（協会調べ）出展があった。



会場全景



屋内展示場



会場入口受付



屋外展示場



ドイツ館

協会ブース



イタリア館



中国館 (中国はこれ以外に単独出展も多くあった)

2. 特記事項

(A) 協会ブース

今回は、ブースを訪れた人達の印象は、

- (1) CMI (施工技術総合研究所) の活動に興味を示す人が増えていたこと。

彼らの多くは、エンジニアリング、コンサルタント、各種協会等であり日本との情報交換、業務提携、日本からの支援等売り込みが目立った。

当協会として、会員企業を通じてこれらの会社と繋がり (コンサルタント、シンポジウム等や講演などが手始めとなろう) が出来れば、インドとの交流発展に役立つと感じた。

今後発展途上国での展示会 (中国、インド等) へは、CMI からの説明員の派遣も検討すべきと思う。

- (2) リピーターの増加

前回の EXCON だけでなく、BICES, Bauma China で協会ブースを訪れた人が目立った。彼らの多くは CONET への関心が高く、次回の開催について

の質問が目立った。

(B) 各国パビリオンの増加

今回は、ドイツ、中国、イタリアが大規模なパビリオンを設営していた。前回には無かったことであり、各国のインドへの関心度合いを感じさせられた。この点、日本はまだまだ出遅れ感が否めない。



(C) 各社展示風景

(ア) 日本メーカ

① KOBELCO

昨年11月に現地販売・サービス会社を設立、本年春より本格的な活動を開始した。今回が初めての出展である。1800平米を確保して、大規模な展示を行っていた。また、本展示会のスポンサーにもなっていた。

② ヤンマー

昨年のハイデラバードでの展示会(小規模)に初出展を行い、代理店設立を行い今回が本格的なお披露目となっていた。今回は7トンクラスの最大モデルを投入、同時にエンジンの展示も行っていた。現地には社長も乗り込み市場開拓への意気込みを感じさせていた。



③ ユニック

前回は参加しているが、今回は中国勢の多さに驚いていた。インドでの商売では中国勢は手ごわい相手と気を引き締めていた。



④ NPK

ドバイからオペレーションを行っていて、今回代理店が出来たことで初参加をした。



⑤ 日立建機

85トンクラスの大型建機を展示し、装飾も大掛かりで現地生産会社の強みを見せていた。



⑥ コマツ

同じく現地生産機種を主体に展示していた。新しく



立ち上げたチェンナイ工場のダンプトラックの展示は見られなかった。

⑦ナブテスコ、川崎プレジジョン

両社とも、取引のある現地会社 WIPRO 社のブース内での展示を行っていた。



⑧油研工業

現地代理店の参加。



(イ) 現地企業の様子



3. その他

(1) 来場者の出足は遅く初日、2日目には、協会バン

フ配布はそれぞれ、35部、55部と極端に少なくどうなることかと心配したが、3,4日目には110部、150部と前半の不調を吹き飛ばす勢いであった。最終日には残った50部も午前中で終了し、持参した400部全て配布した。

(2) 来場者は、パネルの内容をじっくりと読んで、興味があると初めて話に入る。それだけに質問も具体的で、専門的な回答を要求されることもあり、前述の通り、CMIからの派遣も場合によっては必要かつ効果が期待できると思う。

(3) 見学に訪れた日本の部品メーカーの方は、今回来てみて初めて日本が海外進出に遅れていることを痛感したとしみじみと語っていたのが印象的であった。彼らの競合メーカーである欧米メーカーは大々的に参加しており、今後は海外に積極的に目を向けると言っていた。日本パビリオンがあれば是非参加したいとも言っていた。今後このようなメーカー（特に部品、コンポ）が増えれば、協会の日本パビリオンも活性化し、ひいてはCONETの活性化に繋がると期待できる。

バンガロール雑感

今回の展示会は2回目の参加ですが、前回よりは余裕で町の様子を観察することが出来ましたので、その一部をご紹介します。



バンガロールはインド南部の中央高原に位置しています。標高は約600mで、気候は昼間は暑く朝晩は冷え込む、いわゆる高原の気候です。日本からバンガロールへの直行便は無く、インド国内、シンガポール、バンコックなどからの乗り継ぎで入ります。

バンガロールは、光ケーブルが発明された1980年代にアメリカのコールセンターとして、アメリカの消費者の電話を24時間体制で受け付けることで、発展を開始しました。

その後は、皆さんご存知のように、インドのシリコンバレーと呼ばれ、アメリカでのソフト開発の一翼を担ってきました（アメリカで夕方、データを送信すると、翌朝には完成したソフトが届いているという全く時差をうまく利用したシステム）。その後はIT産業の中心地として発展しています。

こう書くと、素晴らしい未来都市を想像されるでしょうが、そうでない所がインドです。

今回目に付いた町の風景や印象深かったものを幾つかご紹介しましょう。

1. インドの車

(1) 乗用車（アンバサダー）

40年程前のイギリスのモーリスオックスフォードを基に、いすゞの20数年前のエンジンを載せた車で、現在も生産されています。価格は約180万円程度との事です。

買いますか？



これ以外に、日本の鈴木、韓国の現代、インドのTATAなどの小型車があります。

(2) トラック、バス

トラックは派手にペイントが施され、山のように荷物を積んで道路の真ん中を堂々とゆっくり走っています。バスも飛ばすときは結構なスピードで危険です。



(3) タクシー

町で唯一の流しのタクシーです。皆さんもインドへ行ったらこれに乗りましょう。

通称トゥクトゥクと呼ばれる三輪車で、BAJAJと言う会社で作っています。2サイクルで煙がひどい（最近はLPガスもある）。昔はガソリンにケロシンを





混ぜていたのもっと煙がひどかったそうです。でも、この会社は最近日産と提携をしたというのだからすごいものです。

これ以外では、町にある旅行会社などで予約するか、ホテルの客はホテル専用のタクシーがあるので、それを使う以外に方法が無いのです。

ちなみに、これは私が泊まったホテルのタクシーです。写真を撮ろうとしたら運転手のおじさんがわざわざ出てきて写ってしまいました（それにしても小さかった）。



2. 道路事情

市内の道路、町を結ぶ街道は、維持管理が悪く穴があったり、舗装がでこぼこ。道の端は舗装が無く赤土が舞い上がっていて、インド人もしっかりと口を覆っていました。



朝のラッシュ



ラッシュ時は赤土の所が車でうずまる。



朝の通学風景（3人乗り）



それを見送るお母さん達

3. 街道の風景

では、何を食べているのでしょうか。



なんとも派手な広告



これ何て書いてあるか判ります？



インドでは、何故か野良犬の顔が長く見えました。気のせいでしょうか



実はこのナンバーなのです。普通の英語と数字が多いのですが、時々バスやトラックに（多分ヒンズー語かな？）文字が併記されています。

4. 市内の風景

ホテルの近くの繁華街。これで、結構有名らしい？微妙な感じのショッピングモールもありました。MacやKFCもありました。

インド人は牛肉を食べないと言われるけど、Mac



展示会場の掃除の女性（木の枝を束ねたものが箒です）

5. ホテルのドアマン

彼はいつもきちんと挨拶をしてくれました。



インドには、幾つかの人種がいて、北へ行くとアリア系の白人で目は青ですが、南部では皆皮膚は黒いが、どういう訳か皆哲学者に見えてしまう。

ちなみに、彼のようにターバンを巻いているのはシーク教徒で皆髭を蓄え、髪はターバンの中でとぐろを巻いているそうです。

名前は、全員シン！（これ以外は無い）

6. その他気になったこと

(1) インド人は真面目に話をする時には、何故か頭が左右にゆらゆら揺れ始める。

真剣になればなる程その揺れは激しくなり、こち

らはなんだか眩暈がしているような気になってしまふ。じっと見つめられて頭を揺らされると失礼ではあるが、噴出しそうになって困るのです。

(2) お金の単位

一般にはルピーと言う単位（1ルピーは大体3円位）ですが、10万ルピーを1ラックという単位で呼びます。新聞などでは良く出てきますが、いまいち換算が出来なくて困ります。

(3) インド人の親切

ホテルも車も冷房をガンガンにかけてくれます。夜は結構涼しいので冷房を止めて寝ましたが、朝でも十分に冷えていて出かける時は必ず切って行くのですが、帰ってくればしっかりと冷やしてあります。ロビーも寒く、なんとセーターを着ました。

車もエアコンの具合はどうかと必ず聞いてくれるので、昼間は暑いので、かけてもらおうと切ってくれというまではガンガンです（これは埃が入らないので多少我慢できますが）。

取り留めの無い話でしたが、少しはインドをお分り頂けたでしょうか？

兎に角、最先端と最低がごちゃごちゃに同居している所です。好きな人にはそこがたまらない魅力なのでしょうが……

JCMA

平成 19 年度版 建設機械等損料表

■内 容

- 国土交通省制定「建設機械等損料算定表」に準拠
- 各機種の燃料消費量を掲載
- わかりやすい損料積算例と損料表の構成を解説
- 機械経費・機械損料に関係する通達類を掲載
- 各種建設機械の構造・特徴を図・写真で掲載

■ B5 版 約 600 ページ

■一般価格

7,700 円（本体 7,334 円）

■会員価格（官公庁・学校関係含）

6,600 円（本体 6,286 円）

■送料 沖縄県以外 600 円

沖縄県 450 円（但し県内に限る）

（複数お申込みの場合の送料は別途考慮）

社団法人 日本建設機械化協会

〒105-0011 東京都港区芝公園 3-5-8（機械振興会館）

Tel. 03 (3433) 1501 Fax. 03 (3432) 0289 <http://www.jcmanet.or.jp>